



世界の農業・農政

台湾の食生活の高度化

国際領域

明石光一郎

1. はじめに

台湾の農業政策の重点の一つはコメの生産調整です。1984年に開始され、現在でもコメ政策の中心となっています。生産調整が行われている理由はコメが余っているからです。なぜコメが余っているかというと、高度経済成長とともに台湾の1人当たりコメ消費量が猛烈な勢いで減少したからです。

ここでは、台湾の1人当たりコメ消費量の動向、コメ消費量が減少した理由について、食生活の高度化という視点から日本、韓国と比較しながら、説明をします。

2. 台湾の1人当たりコメ消費量の減少

台湾の主食はコメです。1960年代には食料消費の大部分がコメであり、1人当たり消費量は130kg程度で推移していました。高度経済成長が始まると、1人当たりコメ消費量は急速に減少してゆきました。減少が始まった1975年における台湾の1人当たりコメ消費量は124kg、日本では85kgでした。コメ消費量の減少が下げ止まる1995年においては、台湾の消

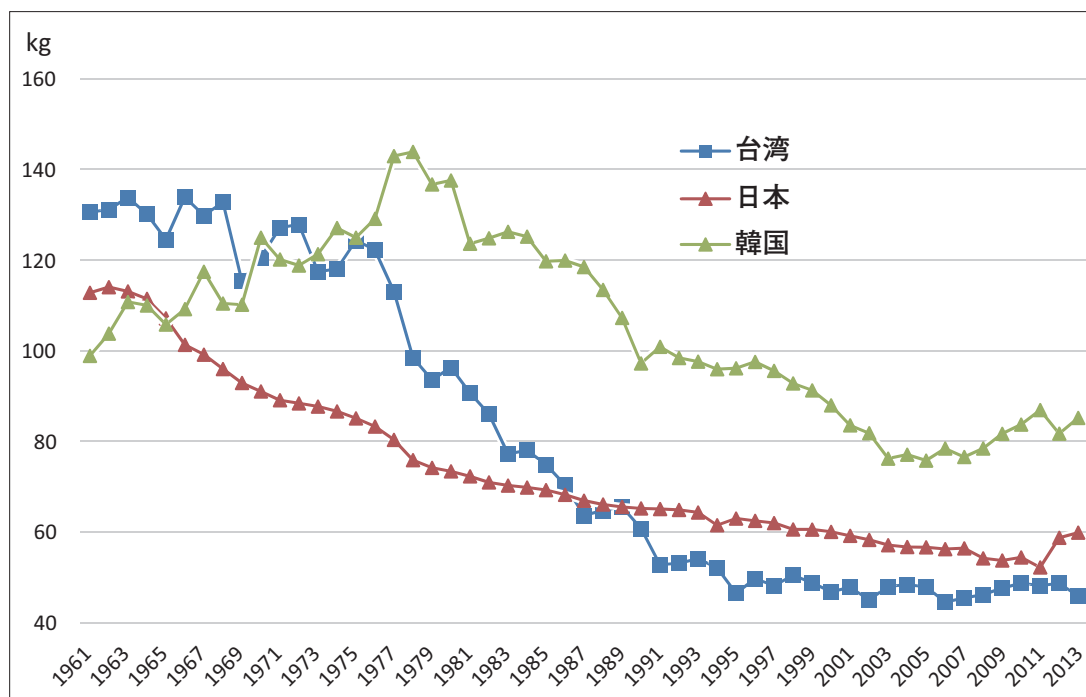
費量は46kg、日本は63kgであり、この20年間で台湾の1人当たりコメ消費量は約80kgも減少しました。同期間の日本の減少量は約20kgでした（第1図）。以上より台湾の減少がいかに顕著であったかがわかります。なぜ台湾のコメ消費量はこれほどまでに減少したのでしょうか。

3. 畜産物による穀物の代替

上記のコメ消費量の減少を引き起こしたのは食生活の多様化でした。台湾では、コメ中心の食生活から多種多様な食物を摂取する、いわゆる食の多様化が進みました。特に、穀物に畜産物が代替してゆきました。

台湾では穀物と畜産物の1人当たり消費量の合計が190kg程度で、この50年間推移しています。

穀物は1975年頃から減少し始め、1995年には下げ止まり、その後は100kg弱で推移しています。他方、畜産物は1976年（43kg）頃から増加の速度が速くなり、1997年の98kgまで増加し、その後は90kg程度で推移しています。上記の関係を考慮すると、穀物消費の減少が畜産物消費の増加により代替され



第1図 台湾、日本、韓国の年間1人当たりコメ消費量

資料：FAOSTAT.

たといえるでしょう。

日本の穀物消費量の変化は台湾よりも緩慢です。穀物は1961年から63年まで増加しましたが、63年の150kgをピークとしてそれ以降減少し、90年代後半には102kgまで減少して、それ以降は下げ止まり、ほぼ100kg程度で推移しています。他方、畜産物は1961年の14kgから増加しはじめ、1996年には64kgとなり、2000年以降はおおむね65kg程度で推移しています。日本では、穀物と畜産物の合計は165kg程度で推移しています。

韓国は、台湾や日本とはかなり異なる動向がみられます。穀物と畜産物の合計は1961年において116kgであり、台湾や日本と較べると少なかったのです。この合計値は1961年から1980年の206kgまでかなり急速に増加し、それ以降は1990年頃までやや減少に転じるのですが、1990年以降再度増加しはじめ、2009年以降には200kgを超えています。穀物消費量は1961年の111kgから1977年の192kgまで増加し、これをピークに減少傾向に入ります。2005年の126kgで下げ止まり、その後はわずかに増加しています。穀物消費量は2009年以降、130kgを超えており、台湾や日本と較べると多いです。畜産物は1961年以降、この50年間以上一貫して増加しています。したがって、韓国においては、1980年頃までは穀物と畜産物は補完関係にあり、1980年以降になって代替関係に入ったといえるでしょう。

4. 食肉消費の特徴

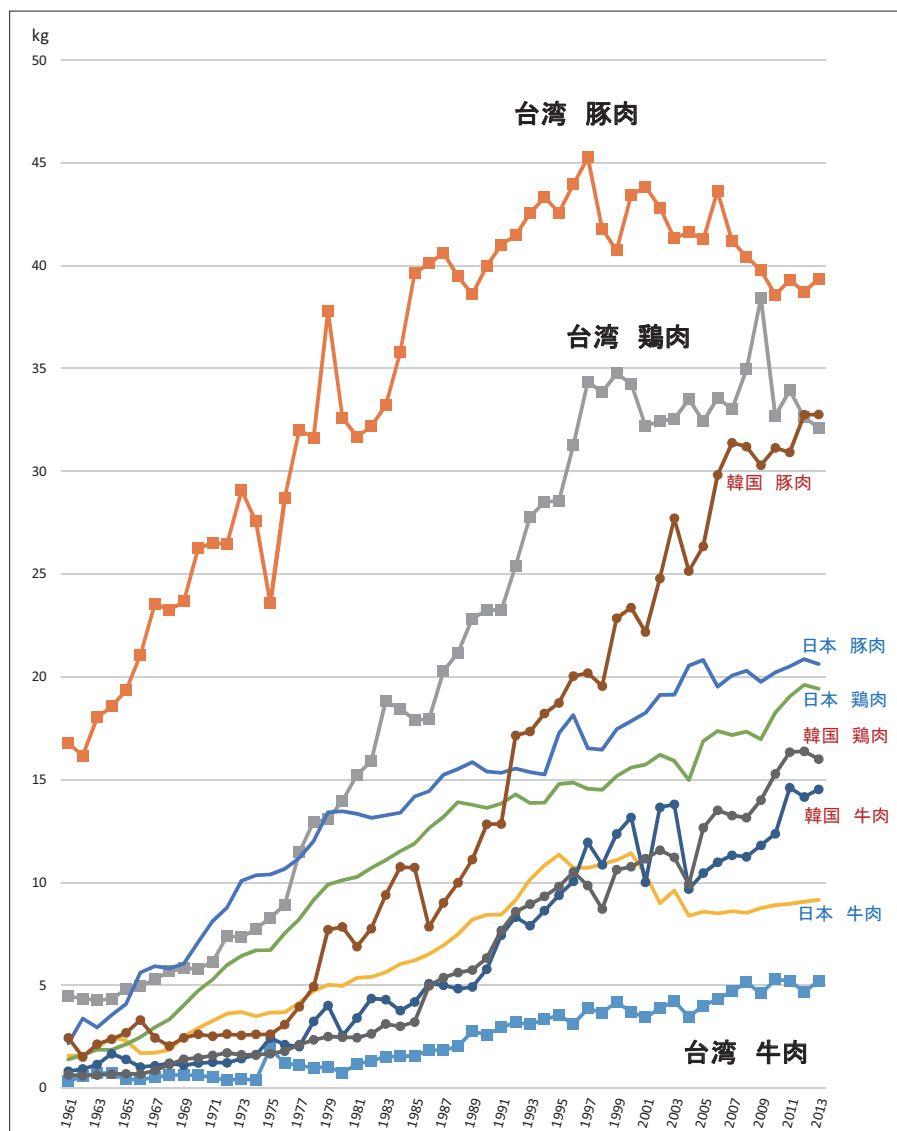
台湾、日本、韓国において穀物、特に畜産物の消費の内訳を見ておきます（第2図）。

台湾の肉消費パターンには日本や韓国とは異なる特徴があります。まず豚肉消費量が多いことです。1961年において1人当たり消費量は17kgあり、1997年には45kgまで増加しました。その後は減少に転じますが、

2000年以降も40kg程度で推移しています。

次の特徴として鶏肉消費量の増加が顕著です。1961年の4kgから、75年の8kgまでゆっくりと増加し、75年以降は増加の速度が速まり、95年には29kgと20年で4倍近く増加しました。75年から95年にかけては、コメ消費量が124kgから46kgへと80kgも減少した時期でもあります。75年から95年は台湾の食生活の多様化が急速に進んだ時期といえます。なお、この時期に豚肉は24kgから43kgへと20kgも増加しています。

他方、牛肉の消費量は、日本や韓国と較べても、台湾の豚肉や鶏肉と較べても、著しく少ないのです。すなわち、台湾では、豚肉と鶏肉を大量に消費し、牛肉消費量は少ないという独特の肉消費パターンをもっています。これは、豚肉、鶏肉、牛肉の消費量がそれほど極端には違わないという日本や韓国とはかなり異なるものです。



第2図 台湾、日本、韓国の年間1人当たり肉類消費量

資料：FAOSTAT.